

令和元年度
けやきの村相談支援センター事業報告書

けやきの村指定居宅介護支援事業所
福島市飯坂北地域包括支援センター
ヘルパーステーションけやきの村
けやきの村指定特定相談支援事業所

令和元年度 けやきの村居宅介護支援事業所事業報告

けやきの村指定居宅介護支援事業所は、介護保険の基本理念である「利用者の自己決定の尊重」・「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本として、常に利用者の意向を踏まえた居宅サービス計画を作成するとともに、その計画に従って適正にサービスが提供されるよう関係事業者等と調整を図り、利用者やその家族の多様な希望や要望に対応しました。また、地域包括支援センター、医療機関、行政等の関係機関との連絡調整を行い、利用者の選択に基づいた支援を行いました。

(1) 実施した事業の内容

- ① 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、公正中立な居宅介護支援の提供を行いました。
- ② 要介護者等の特性を踏まえ、利用者がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようにするための支援を行いました。
- ③ 関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス事業者等との連携を図り、総合的な居宅介護支援を提供しました。
- ④ 福島市等からの業務委託による要介護認定に伴う認定訪問調査は、適正に調査を行うとともに、提出期限までに提出しました。

●居宅サービス計画作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	164件	162件	161件	150件	155件	155件	165件	174件	176件	157件	152件	153件
新規	5件	6件	2件	8件	8件	8件	8件	11件	6件	2件	1件	3件

合計件数；1,924件（平成30年度：1,979件 前年同月比 97.2%）

新規合計数；68件

〈評価と課題〉

初回の利用者には、必ず自宅訪問し、望む生活が送れるよう、本人、その家族の意向を尊重しケアプランを作成した。また、信頼関係が築けるよう対応に配慮した。

ケアプラン作成時には、利用者や家族と面談し、状態の把握を行い、どんな生活を望んでいるか、その為に必要なことは何か、何が障害になっているか等の課題を明確しなくてはならないが、アセスメントの情報量が少ないと感じた。その為、他事業所への情報提供の不足、ケアプラン内容等に反映されていないことがあった。今後、居宅内で独自のアセスメントシートを作成し活用、共有しながらアセスメントスキルの標準化を図っていきたい。

介護度別に前年度と比較すると、要介護3、4、5の利用者数が減り、要介護1、2の利用者数が多くなっている。ニーズに沿ったケアプランを作成していきたい。

新規利用者受け入れに関しては、ほとんどが飯坂北地域包括支援センターとなっている。他包括支援センターからも新規相談していただけるよう、ケア会議の参加等を通してネットワーク作りに努めていきたい。

●介護認定訪問調査の実施件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	14件	7件	12件	16件	17件	26件	18件	22件	24件	32件	22件	18件

合計件数；228件（平成30年度：240件 前年度比95%）

※介護認定訪問調査実施契約市町村；福島市、伊達市、本宮市、富岡町

〈評価と課題〉

福島市等からの業務委託による要介護認定に伴う認定調査については、適正に調査を行い、提出期限までに提出することができた。

入院等の都合により、期日までに提出できない認定調査については、市町村と連絡調整を行い、的確に調査を行うことができた。

認定調査員研修を受講し、認定調査員テキストに基づいて実施、調査票に記入した。

調査前に対象者本人、あるいは家族に日程の確認を行い、訪問約束時間を守り、調査員としてふさわしい身だしなみに配慮した。また、不安や不快感、不信感を与えないよう、話しやすい雰囲気作りに努め調査を実施した。

今後も、公平な判断、適切な判断をし、プライバシーに配慮しながら認定調査を実施していくことが大切なことと思う。契約時や随時、CMの人数に応じた調査が行えるよう市町村と連絡調整し、件数を確保していかなければならないと思う。

(2) 研修・諸会議等への出席状況

職員の資質向上及び、事業に関する情報の収集を目的に、各種研修会・会議等に積極的に参加しました。

研修会名	人数
介護支援専門員専門研修Ⅰ（更新）	1名
主任介護支援専門員研修	1名
新任認定調査員研修会	5名
北方部ケアマネ交流会	6名

認知症アップデート 事例交流会	2名
地域包括ケア会議講演会	3名
認知症の方への尊厳ある関わり方	4名
マンガで学ぶアセスメント	2名
ホームホスピスと地域の力	2名
1000人の看取りに接した看護師が教える「後悔しない死の迎え方」	1名
障がい者の支援の現状～今後のよりよい連携を目指して～	2名
地域包括ケアシステム研修会	2名
高次脳機能障がい者に関する研修会	1名
権利擁護セミナー	1名
認知症スクリーニング研修	1名
高齢者のいのちを支えるセミナー	

〈評価と課題〉

専門職として必要な研修に参加し、資質の向上が図れた。

研修後は居宅介護支援事業所会議で、振り返りを行い、他の研修内容も学ぶことができた。

居宅介護支援事業所会議にて、アセスメント研修会を行った。事例より、各介護支援専門員の色々な視点からの気づきがあった。研修にて学んだことを基に、今後も居宅内で事例検討会やケース報告を行い、ケースの共有とマネジメント力の向上に努めたい。

ケアマネージャーが行うケアマネジメント（アセスメント、ケアプラン作成、モニタリング）能力が向上できる研修会に参加、実施し、スキルアップしていけるようにしたい。

令和元年度 福島市飯坂北地域包括支援センター事業報告

1. 総合相談支援事業

総合相談窓口としての地域包括支援センターの取り組みや機能について地域への周知を行い、支援を必要とする住民の早期発見、早期対応に努めました。

	H30	R1
総合相談受付件数	1,815件	2,359件
サービス担当者会議	241回	120回
包括だよりの発行	4回	3回

●包括だより

回覧、配布月	内容	回覧、配布対象
春号（5月）	職員紹介、いきいきももりん体操について	管内全域 （飯坂、中野、茂庭）
夏号（8月）	お口のももりん体操の普及啓発	
秋号（10月）	認知症について、認知症カフェのお知らせ	
R2年1月	「地域とともに、地域の支えに～私たちの取り組み～」写真にて事業紹介	管内の民生児童委員

2. 権利擁護事業

	H30	R1
虐待への対応	3件	11件
消費者被害への対応	5件	2件
啓蒙のための教室開催	2回	1回
成年後見制度、日常生活自立支援事業等の制度の活用、相談	3件	3件

3. 包括的継続的ケアマネジメント支援事業

介護支援専門員、医療関係、地域の関係機関等との連携を図るとともに、協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援に努めました。

※北方部地域包括【飯坂北、飯坂南、飯坂東、信陵の4包括】

	実施日	内容	場所	
1	H31.4.11	北方部地域包括会議	打合せ	飯坂学習センター
2	R1.5.14	北方部ケアマネ交流会	社会資源の情報提供（買い物）、カフェタイム	飯坂学習センター
3	R1.5.29	北方部地域包括会議	振り返り、打合せ	信陵支所
4	R1.7.1	第1回北方部地域ケア会議	包括支援センターの活用法	飯坂支所
5	R1.8.29	北方部地域包括会議	振り返り、打合せ	はなひらの
6	R1.11.1	北方部地域包括会議	打合せ	信陵支所
7	R1.12.6	第2回北方部地域ケア会議	家族システム論、事例検討 講師 松本喜一 氏	飯坂支所
8	R2.1.15	北方部地域包括会議	振り返り、打合せ	はなひらの
9	R2.3.13	北方部地域包括会議	振り返り、打合せ	けやきの村

4. 生活支援体制整備事業

4-1) 地域支え合い推進員活動 (地域支え合い推進員連絡会報告書より抜粋)

日時	内容	場所
H31.4.7	乙和ふれあいサロン (運動)	
H31.4.15	さくら会のお花見 (骨粗鬆症講話、運動)	滝の沢集会所
R1. 5. 27	茂庭地区 J A スーパー訪問	茂庭 J A スーパー
R1. 5. 27	さくら会の茶話会	滝の沢集会所
R1. 5. 28	茂庭地区山田椎茸園訪問 (運動会について伺う)	茂庭山田椎茸園
R1. 5. 28	茂庭田畑地区町会長にあいさつ	田畑果樹園
R1.6.4	NPO法人茂庭っ湖訪問 (茂庭地区の農家 90 世帯が会員で野菜を卸している。)	茂庭ふるさと館
R1.7.30	グラウンドゴルフ見学	飯坂学習センター
R1.9.8	茂庭地区運動会参加	旧茂庭小学校
R1.10.15	えんの会訪問	飯坂支所
R1.10.20	さくら会芋煮会	滝の沢集会所
R1.11.25	NPO法人いいざかサポーターズクラブ訪問	飯坂サポーターズクラブ
R1.11.26	茂庭地区豊かな老後の集い	茂庭ふるさと館
”	豊かな老後の集い (飯坂地区)	飯坂支所
R1.11.28	道城町城光会訪問 (ラフターヨガ)	はなゆまち
R1.12.9	茂庭地区 J A スーパー定期訪問	茂庭 J A スーパー
R2.1.29	佐藤商店訪問	佐藤商店

●評価と課題

今年度は、「買い物支援を通して住民の生活を知る」ため、茂庭地区の J A スーパーや飯坂町内の佐藤スーパーを訪問し、店員や客である住民一人一人の声を聞き、地区内の住民の暮らしや支え合え合いに触れることができた。茂庭地区では、スーパー以外にも果樹園、派出所、椎茸農家などを訪問し、顔の見える関係作りができたと思う。また、過去に地域支え合い推進員が参加していた活動の場である「えんの会」や「さくら会」などの集まりにも伺い、介護保険のようなインフォーマルな支援もあるが、それよりも住民同士の支え合いが住み慣れた地域での生活を維持、継続していくのだと感じた。次年度は、茂庭地区だけでなく、今年度の個々の訪問を継続しつつ、地域の組織化=協議体作りをしていきたい。それには、住民にも可視化できるように包括だよりなど何等かの方法で、「さくら会」のような住民の支え合う場を広報していきたい。

4-2) 地域協議会設置に向けた取り組み

日時	内容	参加者	場所
R1. 7. 8	茂庭地区における連携について話し合い	長寿福祉課・保健所健康推進課・飯坂北包括	保健福祉センター
R1. 8. 9	茂庭地区打合せの振り返りと今後について話し合い	保健所健康推進課・飯坂北包括	茂庭出張所
R1. 8. 22	茂庭地区の健康を保つためにグループワークの打合せ		茂庭出張所
R1. 8. 29	茂庭地区の健康を保つために（振り返り）話し合い		けやきの村相談支援センター
R1.11.12	茂庭地区地域講座のタイムスケジュール、内容の確認、話し合い		けやきの村相談支援センター
R1.11.18	茂庭地区地域講座 ① 体操 「家でも簡単にできる！肩こり・腰痛・膝痛に効く体操」 ② 講話「3本の矢でフレイルを防ごう」 ③ グループワーク 「ちょっとひといき 健康について考えてみよう！」	飯坂学習センター・保健所健康推進課・飯坂北包括	茂庭出張所
R1.12.12	茂庭地区健康座の振り返りと茂庭地区の今後の取り組みについて話し合い	保健所健康推進課・飯坂北包括	けやきの村相談支援センター
R2.1.21	飯坂地区の健康と支え合いを通じた地域づくりについて話し合い	保健所健康推進課・長寿福祉課・飯坂北包括	けやきの村相談支援センター

●評価と課題

平成30年度の茂庭地区の高齢率は49%であり、要介護認定者数も増加している。また、茂庭診療所が7月に縮小されたこともあり、令和元年度は福島市保健所の新規事業となる「健都ふくしま創造事業」が茂庭地区で実施されることになった。住民が地域で健康に暮らせるために、茂庭出張所、地区会長や民生委員、婦人会長等の地域の要となる方と「茂庭地区の特徴や生活状況、健康を保つためにできそうなこと」について話し合い、茂庭地区地域講座の開催につなげることができた。

今後も、茂庭地区の住民が健康で安心して生きがいをもって生活できる環境を整えていくために、茂庭出張所をはじめ、保健所、長寿福祉課にご支援頂きながら、地域住民との話し合いの機会を設け、自分でできること、地域でできること、行政の役割等について共有できると良いと思う。また、独居高齢者や認知症の方の支援や見守りについては、災害時要援護者台帳を活用しながら、地区組織や既存活動を軸に地域ぐるみで対応できる体制を整えていけたら良いと思う。さらに、茂庭地区のみでなく、飯坂地区、中野地区へもこのような取り組みを広げていきたいと思う。

5. オレンジプラン推進事業(認知症施策)

5-1) 認知症サポーター養成講座

認知症高齢者にやさしい地域づくりに向けて、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族をあたためた目で見守る人「認知症サポーター」を養成するため、令和元年度は「認知症サポーター養成講座」を4回実施しました。

実施日	対象	参加人数	場所
R1.9.13	いきいき教室参加者	8	飯坂支所
R1.10.8	はなもも会参加者	10	飯坂支所
R1.7.30	飯坂薬局職員	5	飯坂薬局
R2.2.27	飯坂地区町内会長、民生委員	6	飯坂薬局

●評価と課題

認サポの参加者の皆さんは、熱心に参加されていて、福島市のケアパスに基づいて認知症施策オレンジプランの「認知症の人も周囲の人も、安心して、自分らしく暮らし続けることができるまち」を軸にした講義内容で進めている。今後は、地域の小学校、町内会単位での認サポを展開していく方向である。また認知症サポーター活動促進チームオレンジへとつなげていけるように、法人内のサポーターに認知症サポーターステップアップ研修を実施し法人内にチームオレンジ発足していきたい。

5-2) いいざかオレンジカフェ

飯坂町中野地区に所在する福祉サービス事業所（「ふるさと」いいざか、アポロガス、せいふうケアリハビリホーム飯坂、つぼみ、けやきの村）が共催し、障がい者と認知症の方の共生を図り、認知症について理解する場を作ることを中心に地域住民を対象にオレンジカフェを実施しました。また、秋には芋煮会を開催し、世代間交流・地域住民の福祉に関する理解を得ることができました。

実施日	内容	対象	人数	場所
R1.7.20 (土) 10:30-12:00	第5回いいざかオレンジカフェ 講話：「認知症予防について」 講師：認知症地域支援推進員 齋藤美恵子	飯坂町 住民	18	「ふるさと」 いいざか
R1.10.19 (土) 10:00-13:00	第5回芋煮会 高齢者疑似体験輪投げ、いきもも体操、マッサージ、宝探しゲーム、マジックショー他		20	
R2.2.15 (土) 10:30-12:00	第6回いいざかオレンジカフェ 講話：「骨粗鬆症予防について」 講師：けやきの村管理栄養士 寺山美智子		11	

5-3) 飯坂薬局の「聞いてくれっ会」(認知症カフェ)

地域包括支援センターの存在、役割について地域住民に周知されていないことから、オレンジカフェの取り組みを通して理解を深めることを試み、飯坂薬局に場所の提供を頂き、法人独自の相談窓口を設置し、認知症カフェの開催につなげることができました。

実施日	内容	対象	人数	場所
R1. 8.22	認知症、介護予防についての相談 第4(木) 14:00-15:00	飯坂地区 町内会	2	飯坂薬局 2階
9.26			3	
10.24			3	
11.28			3	
12.26			3	
R2. 1.23			3	
3.26(木) 14:00-15:00 中止			第1回認知症カフェ 講話「認知症カフェってどんなカフェ」 講師：認知症地域支援推進員 齋藤美恵子	

●評価と課題

地域の軸になる方を対象に認サポを実施し、認知症の理解を深めることで認知症カフェの世話人の担い手を育成し、地域住民が主体となる認知症カフェの必要性を地域に理解してもらえるよう働きかけることが今後重要になる。第1回目の認知症カフェは新型コロナウイルス感染症対策のためを中止としたが、今後は認知症の当事者やサポーター、地域の方が飯坂薬局に集まることが習慣になり、仲間や相談できる人に会えるほっとする場所になると良い、課題としては、会場が2階のため、足腰が不自由な方の参加が難しく、また、駐車場がないため、歩いて来られる方に参加者が限定されてしまうこと。

6. 地域ケア会議の開催

地域ケア会議の開催を通して、個別課題の解決や地域課題の発見、住民や関係機関とのネットワークの構築、さらには地域づくりや社会資源の開発の検討等を行いました。

単位(回)

	H30	R1
圏域での地域ケア会議	1	1 (9/24 小川集会所)
圏域での個別ケア会議	0	0
北方部研修会の開催	2	2
飯坂方部民生児童委員協議会への出席	11	10

7. 介護予防ケアマネジメント

高齢者ができる限り要介護状態にならず自立した日常生活を営むことができるよう支援し、介護保険サービスのみでなく多種多様な社会資源も活用し、高齢者の自立の可能性を最大限引き出す支援を行いました。

	H30	R1
要支援認定者数	延べ1,360件、実(新規35件)	延べ985件、実(新規29件)
事業対象者数	延べ129件、実(新規10件)	延べ376件、実(新規7件)

8. 介護予防普及啓発事業

8-1) いきいき教室

飯坂在住の主に65歳以上の方と高齢者の支援に携わる方を対象に、参加者が介護予防に継続的に取り組み、楽しみのある自立した生活を送れるように実施している介護予防教室。

実施日	日時、場所	内容	人数
4月12日(金)	14:00-15:30 (受付13:30-)	介護予防フレイルについて、生活自立チェック	12
5月24日(金)		運動DVD	12
6月14日(金)	飯坂支所2階 大会議室、学習 センター和室・ 研修室(調理実 習)	栄養講話「バランスのとれた食事について」 講師：管理栄養士 丹治あや子氏	13
7月26日(金)		運動DVD	11
8月23日(金)		ユルらく軽快体操 運動講師：丹治美晶氏	10
9月13日(金)		認サボ養成講座：認知症地域支援推進員(斎藤)	8
10月11日(金)		運動DVD	7
11月22日(金)		お口の健康講話・実技 講師：歯科衛生士 永山直美氏	9
12月13日(金)		コグニサイズ(頭と体を両方動かす運動) 運動講師：紺野勝二氏	8
1月17日(金)		運動DVD	15
2月21日(金)		調理実習、口腔体操・個別相談 管理栄養士：丹治あや子氏、歯科衛生士：永山直美氏	25
3月13日(金)		運動講師(丹治美晶氏)の運動教室 中止	

●評価と課題

教室の初回で、5年後10年後も好きな趣味を続けたり農作業ができるように、日頃からの運動、栄養、社会参加の必要性について伝えた。年間を通して参加することで、各分野の専門職に実技指導を受けたり、個別相談をする機会となり、一人ひとりの介護予防に関する意識を高めることができた。課題としては、例年、参加者が固定化し、男性参加者が少なく、参加人数が減少傾向にあることがあげられた。そのため、今年度は講師依頼する教室は飯坂北包括管内にチラシを回覧することにより、新規参加者が増えたことは良かったと思う。今後も参加の継続を促し、新規参加者を増やすために、魅力ある役に立つ教室づくりに努めたい。また、教室の周知は回覧版の他に、町内会や老人会など男性が中心に活動している団体に直接、教室のPRをして参加人数の増加に努めたいと思う。

8-2) はなもも会

飯坂在住の主に65歳以上の方と高齢者の支援に携わる方を対象に、参加者が介護予防に継続的に取り組み、楽しみのある自立した生活を送れるように実施している介護予防教室。

実施日	日時、場所	内容	人数
4月23日(火)	10:00-11:30	介護予防フレイルについて、生活自立チェック	5
5月14日(火)	(受付 9:30)	運動DVD	6
6月11日(火)	飯坂支所2階 大会議室	栄養講話「バランスの良い食事、塩分制限について」 講師：管理栄養士 丹治あや子氏	11
7月30日(火)		ユルらく軽快体操 運動講師：丹治美晶氏	11
8月27日(火)		消費者被害防止：消費生活センター（佐藤氏、武藤氏）	12
9月10日(火)		運動DVD	6
10月8日(火)		認知症養成講座：認知症地域支援推進員（斎藤）	10
11月12日(火)		運動DVD	6
12月10日(火)		お口の健康講話・実技 講師：歯科衛生士 永山直美氏	9
1月28日(火)		運動DVD	7
2月4日(火)		嚥下講話「お口の元気度アップ～飲み込みについて～」 言語聴覚士：鈴木千恵氏	20
3月31日(火)		運動講師（丹治美晶氏）の運動教室 中止	

●評価と課題

はなもも会の現状として新規参加者が増えず毎回同じメンバーの参加となっている。そのため、本年度より新規参加者を増やすために、健康教室を開催する時はチラシを作成し飯坂北管内で回覧するように努めた。その結果、チラシを回覧した回は参加者が増え新規の方も参加して下さるようになった。ただ、運動DVDの時は参加者が減っている現状である。その対策として次年度からは運動DVDだけでなく、お口のももり体操を追加し、認知症予防・介護予防に口腔機能が重要になる事を周知することで参加者を増やしていきたい。また、次年度は新たな内容の教室(健診結果について、人生ノートの書き方、薬の知識)の開催を計画しており、参加者が増え介護予防に意識が高まる事を期待する。また、本年度は第2または第4火曜日で開催していたが、この日程だと他の教室と日程が重なってしまうため、次年度は他の教室と日程が重ならないよう第3火曜日に計画した。この様に対策を立て、次年度はより多くの方に参加して頂き介護予防に繋げていきたい。

8-3) 運動教室「ひまわり」

飯坂在住の65歳以上の方を対象に、毎月2回(第1・第3木曜日)DVDを利用して実施する運動教室。会場費として会費を1回50円集めて実施している。

実施日	人数	日時、場所	内容
4月4日(木)	14	第1・第3(木)10:00-12:00 はなゆまち2階 (会場費400円/h)	運動講師 (吉井雅彦先生) 作成のDVDを 使用しての運動
4月18日(木)	18		
5月9日(木)	14		
5月30日(木)	19		
6月6日(木)	17		
6月20日(木)	14		
7月4日(木)	18		
7月18日(木)	15		
8月1日(木)	11		
8月22日(木)	17		
9月5日(木)	15		
9月26日(木)	12		
10月10日(木)	10		
10月24日(木)	12		
11月7日(木)	11		
11月21日(木)	14		
12月5日(木)	14		
12月19日(木)	16		
1月9日(木)	15		
1月23日(木)	14		
2月13日(木)	16		
2月20日(木)	16		

【延べ322人(実27人)、平均参加人数15人】

●評価と課題

今年度8月~12月にかけて10~15名の少ない参加人数の時もあったが、それ以外の時期は、声をかけた成果もあり、新規利用者4名を含む16名前後の参加者がいた。一時、自宅で転倒したり、家族の都合で参加できない方もいたが、運動の効果を感じており、すぐ運動教室に復帰し体力を取り戻した方もいるなど、運動が習慣になっている参加者が多い。次年度に向けての検討課題は、会場費用、借用時間、人数の確保である。先日、住民からは運動時間は1時間以内で良いという声もあり、90分のDVDを継続利用するか短時間の物に代えるか、参加者の意向を伺って検討したい。

8-4) 運動教室「ふるさといいざか」

飯坂在住の65歳以上の方を対象に、毎月1回(第4水曜日)DVDを利用して実施する運動教室。

実施日	人数	日時、場所	内容
4月23日(水)	8	第4(水) 10:30-12:00	運動講師 (吉井雅彦先生) 作成のDVDを 使用しての運動
5月22日(水)	4	ふるさと いいざか	
6月26日(水)	6		
7月24日(水)	7		
8月28日(水)	7		
9月25日(水)	7		
10月23日(水)	9		
11月27日(水)	5		
12月25日(水)	8		
1月29日(水)	6		
2月26日(水)	5		
3月25日(水)			

【延べ72人(実12人)、平均参加人数6人】

●評価と課題

参加していた方が体力的に参加できなくなったり、亡くなられる等で存続の危機があった。新規参加者を得るため中野地区にお住まいの方をお誘いし、5人は確保出来た。「ふるさといいざか」は認知症対応型通所介護事業所の一室を借用して実施している。そのため、今後は、会場の周知も兼ねて、地域住民を対象に認サポを行い、認知症予防のためには運動の必要性を伝えていくことが必要であると感じた。認サポの受講→介護予防運動教室への参加→認知症カフェの立ち上げへと一人ひとりの健康づくりから地域での居場所づくりへとつないで行けるようにしたい。

8-5) その他の教室(各団体からの依頼)

実施日時	団体名	内容	人数	場所
4月7日(日) 11:00-11:30	乙和いきいきサロン	いきいきももりん体操、他	23	乙和公園
4月21日(日) 13:30-14:30	高取町内会	いきいきももりん体操、他	20	中野改善センター
4月15日(月) 10:00-11:30	さくら会	骨粗鬆症予防について	15	滝野沢集会所
5月12日(日) 10:30-11:00	鮎川町内会	いきいきももりん体操、他	20	横山民生委員宅
9月5日(木) 10:00-11:30	乙和いきいきサロン	輪投げ前のレク体操	42	飯坂支所
9月7日(土) 10:00-11:00	にこにこさくらサロン	ももりんご・ゆずっこ体操	8	さくら館
9月24日(火) 10:00-12:00	小川町内会	交通安全教室	7	小川集会所

9. 地域づくりによる介護予防事業

9-1) いきいきももりん体操体験講座 1回

実施日時	内容	人数	場所
1月22日 (水) 14:00- 15:30	1、運動講話・実技 講師：快フィットネス研究所 吉井雅彦氏 2、実践報告 道城町城光会 佐藤 広氏	23	飯坂支所

9-2) いきいきももりん体操スタート応援講座 0回

9-3) 立ち上がった団体への継続支援

① 道城町城光会

実施日、場所		内容	人数
11月25日(月)	11:00-12:00 はなゆまち2階	出前講座「こころの健康」ラフターヨガ 講師：快フィットネス研究所 丹治美晶氏	11
1月20日(月)	教室開始前 はなゆまち2階	新型コロナウイルス感染症対策の手洗いについて	10

道城町城光会は毎週月曜日にいきいきももりん体操実施後、忍者体操にも取り組んでいる。
毎月末はお茶のみ会を実施し、運動だけでなくおしゃべりを楽しむ交流の機会となっている。

② 飯坂団地

実施日	内容	人数	場所
12月16日(月) 9:30-11:30	出前講座「認知症予防のためのコグニサイズ」 講師：フィットネスジムDNA福島テルサ店長 紺野 勝二氏	14	飯坂団地集会所
1月27日(火) 9:30-10:00	お口のももりん体操の普及啓発	11	

●評価と課題

いきいきももりん体操体験講座の初の試みとして、実践者の報告を入れたことで活動の様子をイメージすることにつながり、自宅のガレージで取り組んでみたいとの声が上がったのは良かった。新規の自主グループが立ち上がらないのが課題であるため、次年度は2団体以上の立ち上げを目標に取り組みたい。そのためには、町内会長や民生委員が集まる機会に合わせて、いきいきももりん体操の立ち上げ支援について周知したいと思う。また、既存の2団体については、今後も意欲的に活動できるよう出前講座の活用を勧める他、包括から健康づくりの情報を伝える等の支援に努めたい。

9-4) 体力測定会

実施日	内容	人数	場所
12月16日(月) 13:30-15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定（握力、長座体前屈、開眼片足立ち、TUG 30秒椅子立上り） ・健康チェック（血圧、血管年齢、骨密度測定） ・栄養講話、カルシウムたっぷりおやつを試食 	55	飯坂支所

【協力団体：福島市長寿福祉課、福島県老人クラブ連合会、社会福祉法人けやきの村】

●評価と課題

平成27年度より飯坂方部の三包括で実施してきた「飯坂地区体力測定会 減塩豚汁調理実習」の見直しの時期に合わせて、飯坂北包括単独での実施を試みた。実施にあたり当法人のPT、OTによる準備体操、管理栄養士による栄養講話と試食の提供など、法人内の専門職が連携して、飯坂北包括管内の高齢者の健康づくり、介護予防について考える良い機会となった。参加者からは、「個別アドバイスがもらえて良かった。また参加したい。」との感想あり。会場で知り合った参加者同士で他の健康教室に申し込む等、住民同士のつながりも生まれていた。今後も体力測定会を継続し、個人の健康づくりを通して、地域に健康づくりの輪を広げたいと思う。

＜令和元年度 ヘルパーステーションけやきの村事業報告＞

(1) 提供したサービスの内容

- ① 身体介護：利用者の身体に直接接触して行う介助及び利用者と共に行う自立支援のためのサービス

▽サービスの具体的な内容

排泄介助、食事介助、清拭、入浴介助、整容介助、着衣介助、体位変換、移動・移乗介助、起床・就寝介助、服薬確認、自立支援のための見守りの援助

- ② 生活援助：利用者本人及び家族等が困難な場合に行われる日常生活の援助

▽サービスの具体的な内容

掃除、洗濯、ベットメイク、衣類の整理、一般的な調理と配下膳、買物、薬の受け取り

〔平成31年度ヘルパーステーションけやきの村稼働状況〕

ヘルパーステーションけやきの村サービス提供内容					
介護保険			障害福祉サービス		
延べ利用者数	派遣回数	稼働時間	延べ利用者数	派遣回数	稼働時間
875名	8057回	6793時間45分	31人	246回	246時間

「課題と評価」

サービスの提供は、訪問介護計画書に添って、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立った適切な支援を行い、家族の介護負担の軽減になるように努めた。

介護保険で対応できない支援については自費サービスの提案をしたことで、サービス提供につながった。

今後の課題については、自立支援に向けて、利用者と一緒にやる家事や身体機能の維持が図れるようなコミュニケーション能力の向上に努めていきたい。

新規利用の受け入れに努めたが、ほとんどが支援の利用者で身体介護の利用希望が少なかった。他事業所との連携を図り、連日の訪問の新規受け入れに努めていきたい。

(2) 研修・諸会議等への出席状況

- 訪問介護適正実施研修Ⅰ 1名
 訪問介護適正実施研修Ⅱ 1名
 訪問介護テーマ別技術向上研修Ⅰ 1名
 訪問介護テーマ別技術向上研修Ⅱ 1名

地域介護専門職員研修 1名

介護保険制度改正に係る説明会 1名

「課題と評価」

適正実施研修は、サービス提供責任者が受講、テーマ別技術向上研修は、訪問介護員が受講した。研修の中で、他の事業所の意見や経験談を聞くことでたくさんの学びを得ることが出来た。

多職種との連携を図るため今後、地域ケア会議などがあれば参加して行き専門職として職員一人一人が介護技術の向上、コミュニケーション能力のスキルアップを図りたい。

令和元年度けやきの村指定特定相談支援事業所事業報告

(1) 実施した事業の内容

障がいのある利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、サービス等利用計画の作成及び、支給決定後のサービス等利用計画の見直し(モニタリング)を行いました。

〈けやきの村指定特定相談支援事業所計画書作成及びモニタリング状況〉

	計画書作成数	モニタリング数
けやきの村利用者	28名	55名
青松苑利用者	8名	19名
静心園利用者	6名	34名
在宅障がい者	51名	83名
合計	93名	191名

《評価と課題》

施設及び在宅の利用者様が利用している福祉サービスが、滞ることが無いように計画書作成及びサービス調整を図ることができた。

モニタリングについて、新型コロナウイルス問題が拡大する前までは利用者宅への訪問及び提供事業所からの情報を基にしながら資料を作成し利用者の状況によってはサービスの変更や支給量の変更を行った。

介護保険へ移行する利用者については、65歳の誕生日を迎える前までに、地域包括支援センターや居宅支援事業所等と連携を図りながらスムーズな引継ぎを行った。

縮小を余儀なくされた相談支援事業所もあり、その事業所から依頼があった利用者を円滑に受け入れることができた。

今後の課題としては、福島市の計画相談達成率が100%に至っていない現状を鑑み、市や基幹相談支援センターとの情報の共有や協力体制を構築していく必要がある。

(2) 研修・諸会議等への出席状況

職員の資質向上及び、事業に関する情報の収集等を目的に、各種研修会・会議等に積極的に参加しました。

障害者相談支援従事者養成研修ファシリテーター研修	1名
福島県障がい者相談支援従事者専門コース別研修	1名
主任相談支援専門員養成研修	1名
県北北部相談支援事業所連絡会議	2名
福島県北地区障がい福祉連絡協議会定例会	1名
福島県北地区障がい福祉連絡協議会研修会	1名

《課題と評価》

これまで定期的に参加していた相談支援事業所連絡会議の他に、障連協定例会等に参加させていただいたことで相談支援専門員としての経験、知識、視野、人の繋がりが増えた。

主任相談支援専門員の役割のひとつとして通常業務の他に人材育成等も含まれる。常に課題となっている相談支援専門員不足を解消できるように、基幹相談支援センターとの連携を図りながら業務に従事していく。

